受験番号		氏　　名		クラス		出席番号	

試験開始の合図があるまで，この問題冊子の中を見てはいけません。

2014年度　全統マーク高２模試問題

数　　学 ②　〔数学Ⅱ　数学Ⅱ・数学B〕（100点　60分）

2015年２月実施

Ⅰ　注　意　事　項

1　解答用紙は，第１面(表面)及び第２面(裏面)の両面を使用しなさい。

解答用紙に，正しく記入・マークされていない場合は，採点できないことがあります。特に，解答用紙の**解答科目欄にマークされていない場合又は複数の科目にマークされている場合は，０点**となることがあります。

解答科目については，間違いのないよう十分に注意し，マークしなさい。

2　出題科目，ページ及び選択方法は，下表のとおりです。

出題科目	ページ	選択方法
数　学　Ⅱ	４～14	左の２科目のうちから１科目を選択し，解答しなさい。
数学Ⅱ・数学B	15～27	

3　試験中に問題冊子の印刷不鮮明，ページの落丁・乱丁及び解答用紙の汚れ等に気付いた場合は，手を高く挙げて監督者に知らせなさい。

4　選択問題については，解答する問題を決めたあと，その問題番号の解答欄に解答しなさい。ただし，**指定された問題数をこえて解答してはいけません。**

5　問題冊子の余白等は適宜利用してよいが，どのページも切り離してはいけません。

Ⅱ　解答上の注意

解答上の注意は，裏表紙に記載してあるので，この問題冊子を裏返して必ず読みなさい。

河合塾

1465110322150050

数　学　Ⅱ

（全　問　必　答）

第１問　（配点　30）

解説

〔１〕　関数 $f(x)$ を

$$f(x)=2^{2x+2}-2^{x+5}-2^{x}+8$$

とする。

(1)　$f(3)=$ $\boxed{\text{ア}}$ である。

(2)　$2^{x}=t$ とおく。x がすべての実数をとって変化するとき，t は $t>$ $\boxed{\text{イ}}$ を満たすすべての実数をとり得る。また，$f(x)$ を t を用いて表すと

$$f(x)=\boxed{\text{ウ}}\,t^{2}-\boxed{\text{エオ}}\,t+\boxed{\text{カ}}$$

となるから，x の不等式 $f(x)\leqq 0$ を解くと

$$\boxed{\text{キク}}\leqq x\leqq\boxed{\text{ケ}}$$

である。

（数学Ⅱ 第１問 は次ページに続く。）

(3) 二つの曲線

$$C_1 : y = 2^x$$

$$C_2 : y = 3^{-x+n}$$

を考える。ただし，n は整数である。

$n = 1$ のとき，C_1 と C_2 の共有点の x 座標は $\log_6$ $\boxed{\text{コ}}$ である。

また，C_1 と C_2 の共有点の x 座標を x_1 とするとき，$\boxed{\text{キク}} \leqq x_1 \leqq \boxed{\text{ケ}}$ となるような n の値は全部で $\boxed{\text{サ}}$ 個ある。

（数学Ⅱ 第1問 は次ページに続く。）

〔2〕 関数 $g(x)$ を　　**解説**

$$g(x)=-\frac{1}{2}\cos 2x-\sin x-\frac{1}{4}$$

とする。また，以下においては x の値の範囲は $0 \leqq x < 2\pi$ とする。

(1) $\sin x = u$ とおくと，u のとり得る値の範囲は $\boxed{\text{シス}} \leqq u \leqq \boxed{\text{セ}}$ である。

また，$\cos 2x = \boxed{\text{ソ}} - \boxed{\text{タ}}\sin^2 x$ であるから，$g(x)$ を u を用いて表すと

$$g(x)=\left(u-\frac{\boxed{\text{チ}}}{\boxed{\text{ツ}}}\right)^2-\boxed{\text{テ}}$$

となる。よって，$g(x)$ は

$$x=\frac{\pi}{\boxed{\text{ト}}},\ \frac{\boxed{\text{ナ}}}{\boxed{\text{ニ}}}\pi$$ のとき，最小値 $\boxed{\text{ヌネ}}$

をとる。

（数学Ⅱ 第１問 は次ページに続く。）

⑵　k を実数の定数とし，x の方程式 $g(x)=k$ が異なる 3 個の実数解をもつとする。

このとき，k の値は $\dfrac{\boxed{\text{ノハ}}}{\boxed{\text{ヒ}}}$ であり，3 個の解の和は $\dfrac{\boxed{\text{フ}}}{\boxed{\text{ヘ}}}\pi$ である。

第２問 （配点　30）

解説

関数 $f(x)$ を

$$f(x)=x^3-3x+1$$

とし，曲線 $y=f(x)$ を C とする。

(1) $f(x)$ の導関数 $f'(x)$ は $f'(x)=\boxed{\text{ア}}x^2-\boxed{\text{イ}}$ であるから，$f(x)$ は

$x=\boxed{\text{ウエ}}$ で極大値 $\boxed{\text{オ}}$

$x=\boxed{\text{カ}}$ で極小値 $\boxed{\text{キク}}$

をとる。

また，x の方程式 $f(x)=0$ は負の解を $\boxed{\text{ケ}}$ 個，正の解を $\boxed{\text{コ}}$ 個もつ。

（数学Ⅱ 第２問 は次ページに続く。）

(2) 曲線 C 上の点 $(t,\ f(t))$ における C の接線 ℓ の方程式は

$$y=\left(\boxed{\text{サ}}\,t^2-\boxed{\text{シ}}\right)x-\boxed{\text{ス}}\,t^3+\boxed{\text{セ}}$$

である。

以下，k を実数とし，ℓ が点 A$(2,\ k)$ を通るときを考える。このとき

$$k=\boxed{\text{ソタ}}\,t^3+\boxed{\text{チ}}\,t^2-\boxed{\text{ツ}}$$

が成り立つことから，点 A から曲線 C に異なる 3 本の接線が引けるような k の値の範囲は

$$\boxed{\text{テト}}<k<\boxed{\text{ナ}}$$

である。

(3) 曲線 C 上の点 $\left(\boxed{\text{カ}},\ \boxed{\text{キク}}\right)$ における C の接線を ℓ_1 とする。C と ℓ_1 の共有点の x 座標は $\boxed{\text{カ}}$ と $\boxed{\text{ニヌ}}$ であり，C と ℓ_1 で囲まれた図形の面積は $\dfrac{\boxed{\text{ネノ}}}{\boxed{\text{ハ}}}$ である。

第３問 （配点　20）

解説

Ｏを原点とする座標平面上に３直線

$$\begin{cases} \ell_1 : y = x \\ \ell_2 : y = 2x \\ \ell_3 : y = -x + 6 \end{cases}$$

がある。

ℓ_1 と ℓ_3 の交点Ａの座標は $\left(\boxed{\text{ア}}, \boxed{\text{イ}}\right)$ であり，ℓ_2 と ℓ_3 の交点Ｂの座標は $\left(\boxed{\text{ウ}}, \boxed{\text{エ}}\right)$ である。

$\angle\mathrm{OAB} = \dfrac{\pi}{\boxed{\text{オ}}}$ であるから，３点Ｏ，Ａ，Ｂを通る円 C の中心Ｄの座標は $\left(\boxed{\text{カ}}, \boxed{\text{キ}}\right)$ であり，円 C の半径は $\sqrt{\boxed{\text{ク}}}$ である。

直線ADの傾きは $\dfrac{\boxed{\text{ケ}}}{\boxed{\text{コ}}}$ であるから，点Ａにおける円 C の接線 m_1 の方程式は

$$y = \boxed{\text{サシ}}\,x + \boxed{\text{ス}}$$

である。

（数学Ⅱ 第３問 は次ページに続く。）

また，点 B における円 C の接線 m_2 の方程式は

$$y=\frac{\boxed{\text{セソ}}}{\boxed{\text{タ}}}x+\boxed{\text{チ}}$$

である。よって，2 直線 m_1 と m_2 の交点 E の座標は $\left(\frac{\boxed{\text{ツ}}}{\boxed{\text{テ}}},\ \frac{\boxed{\text{トナ}}}{\boxed{\text{ニ}}}\right)$ であり，

三角形 ABE の面積は $\frac{\boxed{\text{ヌ}}}{\boxed{\text{ネ}}}$ である。

第4問 （配点　20）

解説

k を実数とし，x の 3 次式 $P(x)$ を

$$P(x)=x^3-(k-2)x^2+kx+2k-1$$

とする。

$P(-1)=\boxed{\text{ア}}$ であるから，$P(x)$ は

$$P(x)=\left(x+\boxed{\text{イ}}\right)\left\{x^2-\left(k-\boxed{\text{ウ}}\right)x+\boxed{\text{エ}}k-\boxed{\text{オ}}\right\}$$

と因数分解できる。

(1) $k=2$ のとき，x の方程式 $P(x)=0$ の解は

$$\boxed{\text{カキ}},\quad \frac{\boxed{\text{ク}}\pm\sqrt{\boxed{\text{ケコ}}}\,i}{\boxed{\text{サ}}}$$

である。

(2) x の方程式 $P(x)=0$ の異なる実数解の個数がちょうど 2 個となるような k の値は

$$\frac{\boxed{\text{シ}}}{\boxed{\text{ス}}}\quad \text{または}\quad \boxed{\text{セ}}\pm\boxed{\text{ソ}}\sqrt{\boxed{\text{タ}}}$$

であり，とくに $k=\dfrac{\boxed{\text{シ}}}{\boxed{\text{ス}}}$ のとき，その 2 個の実数解は $\boxed{\text{チツ}}$ と $\dfrac{\boxed{\text{テ}}}{\boxed{\text{ト}}}$ である。

（数学Ⅱ 第4問 は次ページに続く。）

(3) x の方程式 $P(x)=0$ が虚数解をもつような k の値の範囲は

$$\boxed{\text{ナ}}-\boxed{\text{ニ}}\sqrt{\boxed{\text{ヌ}}}<k<\boxed{\text{ナ}}+\boxed{\text{ニ}}\sqrt{\boxed{\text{ヌ}}}$$

であり，このときの虚数解を α，β とする。解と係数の関係により

$$\begin{cases} \alpha+\beta=k-\boxed{\text{ネ}} \\ \alpha\beta=\boxed{\text{ノ}}\,k-\boxed{\text{ハ}} \end{cases}$$

が成り立つ。

$\alpha+\beta=\alpha^3+\beta^3$ を満たすような整数 k の値は $\boxed{\text{ヒ}}$ であり，$k=\boxed{\text{ヒ}}$ のとき，$\alpha^{2014}+\beta^{2014}=\boxed{\text{フヘ}}$ である。

（下 書 き 用 紙）

数学Ⅱ・数学Ｂ

問　題	選　択　方　法
第１問	必　　答
第２問	必　　答
第３問	いずれか２問を選択し，解答しなさい。
第４問	
第５問	

第１問 （必答問題） （配点 30） **解説**

〔１〕 関数 $f(x)$ を

$$f(x)=2^{2x+2}-2^{x+5}-2^{x}+8$$

とする。

(1) $f(3)=$ $\boxed{\text{ア}}$ である。

(2) $2^{x}=t$ とおく。x がすべての実数をとって変化するとき，t は $t>$ $\boxed{\text{イ}}$ を満たすすべての実数をとり得る。また，$f(x)$ を t を用いて表すと

$$f(x)=\boxed{\text{ウ}}\,t^{2}-\boxed{\text{エオ}}\,t+\boxed{\text{カ}}$$

となるから，x の不等式 $f(x)\leqq 0$ を解くと

$$\boxed{\text{キク}}\leqq x\leqq\boxed{\text{ケ}}$$

である。

（数学Ⅱ・数学B 第１問 は次ページに続く。）

(3)　二つの曲線

$$C_1 : y = 2^x$$

$$C_2 : y = 3^{-x+n}$$

を考える。ただし，n は整数である。

$n = 1$ のとき，C_1 と C_2 の共有点の x 座標は $\log_6 \boxed{\text{コ}}$ である。

また，C_1 と C_2 の共有点の x 座標を x_1 とするとき，$\boxed{\text{キク}} \leqq x_1 \leqq \boxed{\text{ケ}}$ となるような n の値は全部で $\boxed{\text{サ}}$ 個ある。

(数学Ⅱ・数学B 第1問 は次ページに続く。)

〔2〕 関数 $g(x)$ を

解説

$$g(x) = -\frac{1}{2}\cos 2x - \sin x - \frac{1}{4}$$

とする。また，以下においては x の値の範囲は $0 \leqq x < 2\pi$ とする。

(1) $\sin x = u$ とおくと，u のとり得る値の範囲は $\boxed{\text{シス}} \leqq u \leqq \boxed{\text{セ}}$ である。

また，$\cos 2x = \boxed{\text{ソ}} - \boxed{\text{タ}}\sin^2 x$ であるから，$g(x)$ を u を用いて表すと

$$g(x) = \left(u - \frac{\boxed{\text{チ}}}{\boxed{\text{ツ}}}\right)^2 - \boxed{\text{テ}}$$

となる。よって，$g(x)$ は

$$x = \frac{\pi}{\boxed{\text{ト}}},\ \frac{\boxed{\text{ナ}}}{\boxed{\text{ニ}}}\pi \text{ のとき，最小値 } \boxed{\text{ヌネ}}$$

をとる。

（数学Ⅱ・数学B 第1問 は次ページに続く。）

(2) k を実数の定数とし，x の方程式 $g(x)=k$ が異なる 3 個の実数解をもつとする。

このとき，k の値は $\dfrac{\boxed{\text{ノハ}}}{\boxed{\text{ヒ}}}$ であり，3 個の解の和は $\dfrac{\boxed{\text{フ}}}{\boxed{\text{ヘ}}}\pi$ である。

第2問 （必答問題） （配点　30）

解説

関数 $f(x)$ を

$$f(x)=x^3-3x+1$$

とし，曲線 $y=f(x)$ を C とする。

(1) $f(x)$ の導関数 $f'(x)$ は $f'(x)=\boxed{ア}x^2-\boxed{イ}$ であるから，$f(x)$ は

$x=\boxed{ウエ}$ で極大値 $\boxed{オ}$

$x=\boxed{カ}$ で極小値 $\boxed{キク}$

をとる。

また，x の方程式 $f(x)=0$ は負の解を $\boxed{ケ}$ 個，正の解を $\boxed{コ}$ 個もつ。

（数学Ⅱ・数学B 第2問 は次ページに続く。）

(2) 曲線 C 上の点 $(t,\ f(t))$ における C の接線 ℓ の方程式は

$$y=\left(\boxed{\text{サ}}t^2-\boxed{\text{シ}}\right)x-\boxed{\text{ス}}t^3+\boxed{\text{セ}}$$

である。

以下，k を実数とし，ℓ が点 $\mathrm{A}(2,\ k)$ を通るときを考える。このとき

$$k=\boxed{\text{ソタ}}t^3+\boxed{\text{チ}}t^2-\boxed{\text{ツ}}$$

が成り立つことから，点 A から曲線 C に異なる 3 本の接線が引けるような k の値の範囲は

$$\boxed{\text{テト}}<k<\boxed{\text{ナ}}$$

である。

(3) 曲線 C 上の点 $\left(\boxed{\text{カ}},\ \boxed{\text{キク}}\right)$ における C の接線を ℓ_1 とする。C と ℓ_1 の共有点の x 座標は $\boxed{\text{カ}}$ と $\boxed{\text{ニヌ}}$ であり，C と ℓ_1 で囲まれた図形の面積は $\dfrac{\boxed{\text{ネノ}}}{\boxed{\text{ハ}}}$ である。

第3問　（選択問題）（配点　20）

解説

等差数列 $\{a_n\}$ が

$$\begin{cases} a_1+a_2=7 \\ a_3+a_4=19 \end{cases}$$

を満たしている。このとき，初項は $\boxed{\text{ア}}$ であり，公差は $\boxed{\text{イ}}$ であるから，数列 $\{a_n\}$ の一般項は

$$a_n=\boxed{\text{ウ}}\,n-\boxed{\text{エ}}$$

である。

(1)　自然数 n に対して

$$\sum_{k=1}^{n} a_k=\frac{n}{2}\left(\boxed{\text{オ}}\,n+\boxed{\text{カ}}\right)$$

$$\sum_{k=1}^{n} a_k a_{k+1}=n\left(\boxed{\text{キ}}\,n^2+\boxed{\text{ク}}\,n+\boxed{\text{ケ}}\right)$$

である。

（数学Ⅱ・数学B 第3問 は次ページに続く。）

(2) 数列 $\{b_n\}$ は，初項が $\dfrac{15}{4}$ で，漸化式

$$b_{n+1}=2b_n-4 \quad (n=1,\ 2,\ 3,\ \cdots)$$

を満たすとする。この漸化式は

$$b_{n+1}-\boxed{\text{コ}}=2\left(b_n-\boxed{\text{コ}}\right) \quad (n=1,\ 2,\ 3,\ \cdots)$$

と変形できる。ここで，$c_n=b_n-\boxed{\text{コ}}$ $(n=1,\ 2,\ 3,\ \cdots)$ とすると，数列 $\{c_n\}$ は初項が $\dfrac{\boxed{\text{サシ}}}{\boxed{\text{ス}}}$，公比が $\boxed{\text{セ}}$ の等比数列である。

よって，数列 $\{b_n\}$ の一般項は

$$b_n=\boxed{\text{コ}}-\boxed{\text{ソ}}^{\boxed{\text{タ}}}$$

である。ただし，$\boxed{\text{タ}}$ については，当てはまるものを，次の⓪～⑥のうちから一つ選べ。

⓪ n　① $n-1$　② $n+1$　③ $n-2$

④ $n+2$　⑤ $n-3$　⑥ $n+3$

次に，数列 $\{d_n\}$ は

$$d_n=a_n+b_n \quad (n=1,\ 2,\ 3,\ \cdots)$$

を満たすとする。

$$d_{n+1}-d_n=b_n-\boxed{\text{チ}} \quad (n=1,\ 2,\ 3,\ \cdots)$$

であるから，数列 $\{d_n\}$ の項のうち，最大である項は

$$d_{\boxed{\text{ツ}}}=\boxed{\text{テト}}$$

である。

第4問 （選択問題） （配点　20）

解説

$\mathrm{OA}=3$，$\mathrm{OC}=2$，$\angle\mathrm{AOC}=\dfrac{\pi}{3}$ である平行四辺形 OABC において，線分 BC を 3:1 に内分する点を D とし，線分 AB を 2:1 に内分する点を E とする。以下，$\overrightarrow{\mathrm{OA}}=\vec{a}$，$\overrightarrow{\mathrm{OC}}=\vec{c}$ とする。

$$\overrightarrow{\mathrm{OD}}=\frac{\boxed{\text{ア}}}{\boxed{\text{イ}}}\vec{a}+\vec{c},\quad \overrightarrow{\mathrm{OE}}=\vec{a}+\frac{\boxed{\text{ウ}}}{\boxed{\text{エ}}}\vec{c}$$

であり，$\vec{a}\cdot\vec{c}=\boxed{\text{オ}}$ である。

直線 AD と直線 OE の交点を P とする。点 P は直線 AD 上にあるから，実数 s を用いて $\overrightarrow{\mathrm{OP}}=\overrightarrow{\mathrm{OA}}+s\overrightarrow{\mathrm{AD}}$ と表される。よって

$$\overrightarrow{\mathrm{OP}}=\left(1-\frac{\boxed{\text{カ}}}{\boxed{\text{キ}}}s\right)\vec{a}+s\vec{c}$$

となる。さらに，点 P は直線 OE 上にあるから，実数 t を用いて $\overrightarrow{\mathrm{OP}}=t\overrightarrow{\mathrm{OE}}$ と表される。したがって

$$s=\frac{\boxed{\text{ク}}}{\boxed{\text{ケ}}},\quad t=\frac{\boxed{\text{コ}}}{\boxed{\text{サ}}}$$

である。

（数学Ⅱ・数学B 第4問 は次ページに続く。）

次に，点Pから直線OCに引いた垂線と直線OCの交点をHとする。

$\overrightarrow{\mathrm{OC}}\cdot\overrightarrow{\mathrm{PH}} = \boxed{\text{シ}}$ であるから

$$\overrightarrow{\mathrm{OH}} = \frac{\boxed{\text{スセ}}}{\boxed{\text{ソタ}}}\vec{c}$$

であり，$\left|\overrightarrow{\mathrm{PH}}\right| = \sqrt{\boxed{\text{チ}}}$ である。

点Pを中心とし，点Hを通る円をKとする。点Bは円Kの $\boxed{\text{ツ}}$ にある。

$\boxed{\text{ツ}}$ に当てはまるものを，次の⓪～②のうちから一つ選べ。

⓪ 内部　　① 周上　　② 外部

第5問（選択問題）（配点　20）

解説

2個のさいころを同時に1回振ったとき

出た目の和が4の倍数のとき1点，

出た目の和を4で割った余りが2のとき2点，

出た目の和を4で割った余りが1または3のとき4点

をもらえるゲームを3回行う。

n 回目のゲームにおける得点を X_n（$n=1, 2, 3$）とし，$S=X_1+X_2+X_3$ とする。

(1)　$X_1=1$ となる確率は $\dfrac{\boxed{ア}}{\boxed{イ}}$，$X_1=2$ となる確率は $\dfrac{\boxed{ウ}}{\boxed{エ}}$，$X_1=4$ となる確率は $\dfrac{\boxed{オ}}{\boxed{カ}}$ である。$S=6$ となる確率は $\dfrac{\boxed{キ}}{\boxed{クケ}}$ である。$X_1=1$ かつ $S=6$ となる確率は $\dfrac{\boxed{コ}}{\boxed{サシ}}$ である。

（数学Ⅱ・数学B 第5問 は次ページに続く。）

(2) X_1 の期待値(平均) $E(X_1)$ は $\dfrac{\boxed{\text{スセ}}}{\boxed{\text{ソ}}}$ であり，分散 $V(X_1)$ は $\dfrac{\boxed{\text{タチ}}}{\boxed{\text{ツテ}}}$ である。

(3) 確率変数 X_1 と X_2 は互いに $\boxed{\text{ト}}$。確率変数 X_1 と S は互いに $\boxed{\text{ナ}}$。

$\boxed{\text{ト}}$，$\boxed{\text{ナ}}$ に当てはまるものを，次の⓪～②のうちから一つずつ選べ。ただし，同じものを選んでもよい。

⓪ 独立である　　① 独立でない　　② 排反である

(4) S の期待値(平均) $E(S)$ は $\dfrac{\boxed{\text{ニヌ}}}{\boxed{\text{ネ}}}$ であり，分散 $V(S)$ は $\dfrac{\boxed{\text{ノハ}}}{\boxed{\text{ヒフ}}}$ である。

Ⅱ 解答上の注意

1 解答は，解答用紙の問題番号に対応した解答欄にマークしなさい。

2 問題の文中の $\boxed{\text{ア}}$，$\boxed{\text{イウ}}$ などには，特に指示がないかぎり，符号（$-$），数字（0 ～ 9），又は文字（a ～ d）が入ります。**ア**，**イ**，**ウ**，… の一つ一つは，これらのいずれか一つに対応します。それらを解答用紙の**ア**，**イ**，**ウ**，… で示された解答欄にマークして答えなさい。

例 $\boxed{\text{アイウ}}$ に $-8a$ と答えたいとき

ア	● ⓪ ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⓐ ⓑ ⓒ ⓓ
イ	⊖ ⓪ ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ● ⑨ ⓐ ⓑ ⓒ ⓓ
ウ	⊖ ⓪ ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ● ⓑ ⓒ ⓓ

なお，同一の問題文中に $\boxed{\text{ア}}$，$\boxed{\text{イウ}}$ などが 2 度以上現れる場合，2 度目以降は，$\boxed{\text{ア}}$，$\boxed{\text{イウ}}$ のように細字で表記します。

3 分数形で解答する場合，分数の符号は分子につけ，分母につけてはいけません。

例えば，$\dfrac{\boxed{\text{エオ}}}{\boxed{\text{カ}}}$ に $-\dfrac{4}{5}$ と答えたいときは，$\dfrac{-4}{5}$ として答えなさい。

また，それ以上約分できない形で答えなさい。

例えば，$\dfrac{3}{4}$，$\dfrac{2a+1}{3}$ と答えるところを，$\dfrac{6}{8}$，$\dfrac{4a+2}{6}$ のように答えてはいけません。

4 根号を含む形で解答する場合，根号の中に現れる自然数が最小となる形で答えなさい。

例えば，$4\sqrt{2}$，$\dfrac{\sqrt{13}}{2}$，$6\sqrt{2a}$ と答えるところを，$2\sqrt{8}$，$\dfrac{\sqrt{52}}{4}$，$3\sqrt{8a}$ のように答えてはいけません。

問題を解く際には，「問題」冊子にも必ず自分の解答を記録し，試験終了後に配付される「学習の手引き」にそって自己採点し，再確認しなさい。